

2019年度入学式告辞

2019年4月1日

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、ご参集の保護者の皆様にも、心からお祝い申し上げます。市邨学園名古屋経済大学は、本日、大学院に43名、学部には621名の入学者を迎えることができました。名古屋経済大学の教職員を代表して、心から皆さんのご入学を歓迎いたします。春の光が輝き、キャンパス内の桜も満開になった、この良き日に、犬山市長の山田拓郎様、犬山商工会議所会頭の日比野良太郎様はじめ、多くのご来賓の方々のご臨席を得て、ここに入学式を挙げることを大変うれしく思います。

新入生の皆さんは、希望に胸ふくらませ、また、新しい環境の下で心地よい緊張感を抱きながら、ここに集まっていることと思います。是非、この緊張感を4年間、あるいは大学院の方は3年または2年の間忘れないようにして、学習や研究に励んでいただきたいと思います。大学院に入学した皆さんは、すでに目的がはっきりしていると思われるので、その目的に向かって全力で研究をしていただきたいと思います。

ここからはおもに学部生にお話をしたいと思います。名古屋経済大学は4年間を通じて、皆さんを社会で活躍できる人材に育ててい

く所存です。「結果にコミットする大学」だと、自信をもって申し上げます。市邨学園の創立者の市邨芳樹先生の教えに「一に人物、二に伎倆」という教えがあります。これが名古屋経済大学の基本理念です。AIが進化し、皆さんが卒業するころには、今まで人が行ってきた仕事の多くをロボットが代って行うようになると思われまます。まさに予測不可能な時代であります。このような時代には、人は何をすべきかが常に問われることとなります。最近耳にした、優れたセールスマンの共通した見解で、「セールスマンはモノを売るのではなく、信用を売るのだ」という言葉が、これからの時代に人が何をすべきかを考えるヒントになると思います。何をするにしても、人としての良識を持ち、社会で尊重される人物であることが最も重要な前提となるのではないのでしょうか。皆さんは18歳成人の法制化に伴い、大人としての自覚を問われてきたと思いますが、我々は、新入生の皆さんを、あえて大人としては扱わず、4年間をかけて立派な大人に育てていく第一歩として位置づけたいと思います。少数クラス制をとり、日常生活の送り方も含めて教育をしていくつもりでありますので、覚悟をしていただきたいと思います。

これからの大学の学びには、性格の異なる2種類のものがあると

思います。一つは、社会生活を送り、仕事をする上で必要とされる、いわゆる「読み書きそろばん」にあたるものです。本学では、コンピューターリテラシーや英会話に加えて、「基礎力養成講座」を能力別に受講していただきます。数学ができないから文系に来たという人も少なくないかもしれませんが、簡単な数学ができなければ社会生活も不便になりますし、一流企業への就職はできません。われわれが「読み書きそろばん」にこだわるのは、皆さんを受け入れた以上、立派な社会人として社会に送り出す覚悟の表れだと思って、これらの授業についてきてください。また、社会で働くことのイメージを早い段階で持っていただくために、本学では、2年生、3年生の間に就業体験、いわゆるインターンシップに全員が行くことになります。このようにして、社会に出る準備をしていただきます。

次にお話ししたいことは、第二の学びとも言うべきもので、高校時代とは大きく異なる学びとなります。名古屋経済大学が教育目標として掲げているのは「グローバル人材の育成」であります。現代社会は、急速にグローバル化しています。たとえば、われわれの日常生活を支えている品々の生産地を見れば、日常生活が世界の諸国との分業によって成り立っていることが分かるでしょう。さらに、

少子高齢化を迎える日本においては、製造業のみならず、コンビニなどの小売業、メガバンクなどの金融業、学習塾などの教育産業などのサービス産業が、縮小する日本市場を当てにせず、世界、特にアジア諸国に進出しています。皆さんが卒業し、企業に勤める時には、直接的、間接的に海外とかかわっていない企業はないと断言できるでしょう。おそらく、アジアの主要都市は日帰り出張圏となっていると思います。したがって、われわれは、みなさんがグローバルに、とりわけアジアで違和感なく活躍できる人材に育っていただきたいと思っています。名古屋経済大学は、日本経済のさらなるグローバル化を見越して、5年前からキャンパスのグローバル化を目指して、留学生を積極的に受け入れてきました。今年も、本学は87名の留学生を受け入れることができました。全学では約500名の留学生が学んでいます。留学生を積極的に受け入れる方針を立てたのは、大学という教育産業も海外市場を対象とするべきだという経営上の戦略もありますが、なによりも、日本人学生が、グローバルに活躍できる人材に育ってほしいという思いがあるからです。そこで、皆さんにお願いをしたいのですが、留学生も日本人学生も大いに交流を深めていただきたいということです。キャンパスにいな

がら国際交流ができるという恵まれた環境を大いに生かしてください。留学生は、分からないことがあったら躊躇することなく、まわりの日本人学生に質問してください。これは日本人学生のためにもなるのですから、躊躇する必要はありません。また、日本人学生は是非、留学生と積極的に交流をし、自分の日本についての知識をためし、また、自分が常識と思っていることが外国人の感覚とどのように異なるかを実感してください。さらに、本学の国際交流室は、留学生向けに、浴衣の着付け教室とか、相撲部屋見学とか、さまざまな日本文化を理解するための企画を実施します。これらには、日本人学生も是非積極的に参加してください。国際社会で活躍している日本人の多くが「真のグローバル人は英語がうまく話せる人ではなく、自分の国のことを外国人にきちんと説明できる人」だと言います。日本人が、グローバル人材となるためには日本文化をよく理解することが必要だということです。留学生をたくさん迎え入れるようになって、キャンパスには目に見えて変化が起こっています。日本人学生の留学希望が増えてきました。本学では、ベトナム人留学生の実家にホームステイするとか、中国の協定校への交換留学をするとか、カナダの大学へ語学留学するなど、留学の機会を拡大し

つつあります。皆さんも是非、在学中に留学を経験し、グローバル人材に育っていただきたいと思います。

ところで、グローバルに活躍するためには、現実には生じる様々な問題に柔軟に対応する能力が必要になります。名古屋経済大学はこの能力を養成するために犬山を中心とするこの地域をキャンパスと位置付けて様々な授業を展開してきました。名古屋経済大学は、犬山にある唯一の大学として地元にも愛され、期待されていると自負しています。このことは、本日の入学式に、犬山市長、犬山商工会議所会頭をはじめ、あとからご紹介させていただきます地元の高校の校長先生方が出席してくださっていることからもお分かりだと思います。この犬山は、国宝犬山城を擁し、博物館明治村、野外民族博物館リトルワールド、京都大学霊長類研究所などの研究者を擁する研究組織が多数集積した学術都市です。本学では、犬山学研究センターを設置し、これらの研究組織と連携をはかるためにネットワークを設立しました。これらの研究組織の協力を得て、犬山を大学のキャンパスと位置付けた「体験型学習」を1年生全員に提供しています。たとえば、「犬山の観光戦略を考える」というテーマのもとに、犬山市への観光客を増加させるためにはどのような施策が有効かを

考える、などです。高校までの学びの多くは、正解があることを前提に、その正解を覚えることが中心であったかと思いますが、社会に出て解決をしなければならない問題の多くは、一つの正解があるわけではありません。目の前にある地元の具体的問題の解決策を考えることは、今後皆さんが社会に出て活躍するうえで重要だと思われるます。とくに、先ほど言った予測不可能な現代にあっては、既存の常識にとらわれず、柔軟に対応する能力が問われると思われるからです。このように、地元で教材を求め、その問題解決に取り組むという、ローカルに問題を考える姿勢はグローバル時代にこそ、ますます重要になっていると考えられます。これこそがグローバル人材の育成であります。

もう一つ皆さんに心がけていただきたいことがあります。学生時代に生涯の友人を見つけてほしいということです。社会に出ると利害関係が付いて回ります。利害関係のない人間関係の中で親友を作るには学生時代が最も有利だといえるからです。サークル活動やボランティア活動を積極的に行い、真の友人を作り、また、多くの思い出を作ってくださいと思います。

ガイダンスのような話をしましたが、間もなく発表される新しい

元号の下で、皆さんが充実した学生生活を送られるように祈念し、
また、本学はそのための機会を提供することをお約束し、私の告辞
といたします。

本日は、ご入学おめでとうございました。

2019年4月1日 名古屋経済大学 学長 佐分晴夫